様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 １０ 日現在

機関番号：３４３１６
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｈ０２２８３

研究課題名（和文）南方熊楠のノート・書き込み・書簡に関するデータベース作成とその分析

研究課題名（英文）Database Creation and Analysis of the Notes, Marginal Writings, and Letters of MINAKATA Kumagusu

研究代表者
松居　竜五（Matsui, Ryugo）

龍谷大学・国際学部・教授

研究者番号：４０２３８９５２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　13,100,000円

研究成果の概要（和文）：　南方熊楠の学問活動の成果は、書籍や雑誌論文だけでなく、ノート・書き込み・書簡のような未刊行の資料として、重要な部分が残されている。本研究では、これらの資料のデジタル画像化とデータベース化をおこない、これらの資料を総合的に理解するための方法論を確立することを試みた。これにより、熊楠が古今東西の書籍をどのように読み込み、「ロンドン抜書」や「田辺抜書」といった膨大な筆写ノートを作成し、その成果を自分の思想形成にどのように役立てていったかという道筋を、実証的に分析することが可能となったと考えている。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　南方熊楠の思想は、これまではきちんとした学問的な分析ではなく、根拠のないイメージや発想の飛躍によって語られることが多かった。しかし、熊楠の残した学問的な構想は、今後、国内外のさまざまな分野に影響を及ぼすことができるような緻密で広範囲なものである。今回の研究によって、和歌山県田辺市に残されたこの貴重な学術的遺産の中でも中核をなす、ノート、書き込み、書簡などの可能性を最大限に後世に活かすための基礎的な作業をおこなうことができたと考えている。

研究成果の概要（英文）：The essence of Minakata Kumagusu's academic activities remain not only as the published books and articles, but the notes, marginal writings, and private correspondences. We made the digital images and database of these materials for the comprehensive approach to Minakata's thought. In this way, we have established the method of empirical research to trace how Minakata read the books of all ages of the East and West, compiled the voluminous notes called "London Extracts" or "Tanabe Extracts", and created his unique philosophy.

研究分野：思想史

キーワード：比較文化　民俗学　博物学　文化人類学　大英博物館　文理統合　植物学　データマイニング

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

本科研の申請者と共同研究者を中心とするグループによって、1992 年頃から和歌山県田辺市の南方熊楠旧邸の調査が始まり、その後計 7 度にわたる科学研究費（1993～1994 年度奨励研究Ａ、1996～1998 年度基盤研究Ａ、2000～2003 年度基盤研究Ｂ、2004～2007 年度基盤研究Ａ、2008～2010 年度基盤研究Ｂ、2011～2013 年度基盤研究Ｂ、2014～2016 年度基盤研究Ｂ。1996-1997 年を除いていずれも申請者が研究代表）などを通じて基礎研究を充実させてきた。

こうした成果を基に『南方熊楠邸蔵書目録』（2004 年）『南方熊楠邸資料目録』（2005 年）を刊行し、2006 年に旧邸隣地に田辺市により南方熊楠顕彰館（以下主に「顕彰館」と表記）が設立された。この顕彰館は、現存する南方熊楠資料の約 8 割程度（残り 1 割が和歌山県白浜町の南方熊楠記念館、1 割が個人などの所蔵と推定）を有する施設で、翻刻成果や『熊楠ワークス』（年 2 回）の刊行を行う他、講演会、奨励研究事業、展観などを組織している。顕彰館の学術活動は、本科研のメンバーと地元の研究者を構成員とする学術部（部長・田村義也）において統括している。

こうした研究の進展に基づいて、関連の研究者によって、2014 年 8 月の準備大会を経て、2015 年 8 月に約 40 名の会員を有する南方熊楠研究会（会長・武内善信）が発足した。研究会では 1999～2006 年に南方熊楠資料研究会の編集で刊行していた『熊楠研究』（第 1～8 号）を引き継ぎ、新たに会誌としての『熊楠研究』第 9 号を 2015 年 3 月に刊行した。会則に則って、研究会は会長以下、5 名程度の運営委員と 5 名程度の編集委員によって運営されている。毎年 8 月に顕彰館において例会を開催し、その成果に基づいて翌年 3 月に『熊楠研究』を刊行することが決められており、現在は３年度目に入って『熊楠研究』第 11 号の編集が進行中である。この研究会の発足により、関連研究者の間での共同作業を、より緊密に進めるための体制が整ってきた。

一次資料に基づく基盤研究が大きく進展したことで、研究の重点は熊楠の思想の現代的意義の指摘のみではなく、その学問形成の過程に対する、より精緻な分析へと移行しつつある。その際、幼少期から開始された筆写ノートや蔵書への書き込み、また各種草稿の果たした役割と、基本的なテクストとしての私信の重要性についての認識が共有されてきており、こうしたノート・書き込みと書簡の全体的な把握が喫緊の課題となってきている。従来、定本とされてきた『南方熊楠全集』（1971～1975 年）は、従来の作家・思想家の研究と同様に刊行された書籍や雑誌掲載論文を中心に編纂されているが、それでは熊楠の学問活動の全体像を把握できないことが明確となった。

２．研究の目的

今回の研究においては、ノートなどの草稿資料や、蔵書への書き込み、そして書簡・来簡類の研究を中心に据え、関連の研究者の連携によるデータベースの作成と、これに基づく共同研究を進めることとした。草稿資料に関しては、熊楠が 10 歳前後に和歌山で開始し、東京時代（15～18 歳）、アメリカ時代（19 歳～25 歳）、ロンドン時代（25 歳～33 歳）と作り続けたノート類に関して、内容目録を作成した上で、分析を進める。また、旧蔵書中に見られる多くの書き込みについても分析を進め、筆写と蔵書から熊楠が学問的アイデアをどのように発見して行ったかに関する道筋を解析する。また、生涯を通じて総計で１万通程度に達する書簡と来簡に関してもデータベースを作成し、熊楠の学問的達成についての分析を進めることとした。

ノート類

まず草稿資料について、熊楠が作成したノート類のうちで、本人が一定の意図の下に作成したと考えられるものは次の通りである。なお、[ ]内に表記した所蔵番号が A から始まるものは記念館、「自筆」から始まるものは顕彰館の所蔵資料である。

① 「東京予備門時代ノート」4 冊、1885～1886 年頃、[自筆 066]～[自筆 069]
② 「南方熊楠叢書」９冊、1885 年、[A-042]～[A-050]
③ 「アメリカ時代のノート」5 冊、1888～1890 年、[自筆 071]～[自筆 075]
④ 「The Scientific Memoir」3 冊、1888 年、[A1-053]～[A1-055]
⑤ 「課余随筆」11 冊、1884～1899 年、[A1-038]～[A1-040]、[A1-060]～[A1-066]
⑥ 「ロンドン抜書」52 冊、1895～1900 年、[A1-67]～[A1-69]、[自筆 094]～[自筆 143]
⑦ 「田辺抜書」60 冊、1907～1931 年、[A1-070]、[自筆 169]～[自筆 227]、[A1-071]
⑧ 腹稿　100 点以上　未調査

このうち⑥「ロンドン抜書」は、ロンドンの大英博物館において、熊楠が英語・仏語・イタリア語・スペイン語など 9 か国語の書籍を書き抜いたもので、後の学問展開の基礎を形作ったと考えられる。申請者は 2016 年 12 月刊行の『南方熊楠 複眼の学問構想』の参考資料として「ロンドン抜書」全引用書の書誌を目録化して発表しており、今後は内容調査が必要となる。

⑦「田辺抜書」に関しては、後述の東京翻字の会を中心として目録化が進められており、2014

年以降、毎年 8 月におこなわれる研究会の例会においても進捗状況が発表されている。今回の研究において、⑥⑦はデジタル画像および作成中のデータベースを関連の研究者の間で共有化し、内容分析を進める。

これに対して、①～⑤は 1893 年の熊楠の Nature への投稿開始より以前（⑤の後半を除く）に作成された初期ノート群と呼ばれるべきものであるが、全体として調査・研究が遅れている。まずはデジタル化を進めることが重要であると考えている。

これらの草稿資料に準ずるものとして、蔵書の書き込みも重要である。すでに『南方熊楠邸蔵書目録』（2004）において、蔵書中の書き込みに関する大まかな調査はされているが、内容には踏み込んでいない。一部の書籍についての書き込み調査が進行しており、『熊楠研究』などに発表されている。これを受けて、今回の調査では和漢洋の中で特に重要な書籍についての調査と翻刻作業をおこなう。上記の筆写ノート群の調査と合わせて、これによって熊楠が独自の学問形成をする段階で、どのような文献からどのように影響を受けたのかという状況の全体像を把握することが可能になるはずである。

また後半生の熊楠が日本語論文を執筆する際に構想を温めたと考えられる⑧「腹稿」と呼ばれる巨大で稠密なメモがあるが、これまでの研究ではほとんど読み解かれることがなかった。南方熊楠顕彰館と南方熊楠記念館を中心として、100 点以上が現存しているが未調査である。今回の研究では、まずこれらの総数を確定した上で、特に初期の頃の腹稿の解読を試みることで、後半生の熊楠の学問構想に迫ることにも挑戦したい。

蔵書書き込み

南方熊楠の旧蔵書はほぼそのすべてが顕彰館（一部記念館）に架蔵されている。これらの書籍には、和漢洋を問わず多くの書き込みが見られ、その調査は研究者個々の関心に沿って断片的に紹介がおこなわれている。たとえば、小峯和明と飯倉照平による『今昔物語集』への書き込み、松居竜五による『石神問答』、『遠野物語』、H.Spencer の著作への書き込み、杉田英明の『アラビアン・ナイト』への書き込み、池田宏による『夷堅志』への書き込み、高陽による『太平広記』、『夷堅志』、『聊斎志異』への書き込み、平川恵実子による『沙石集』への書き込みの調査、などである。今回の研究においては、これらの南方熊楠による蔵書書き込みの先行文献を踏まえて、今後の調査のための指針を探りたい。

書簡

一方、書簡については平凡社版の『南方熊楠全集』や他の出版によって、すでにある程度の量が刊行されてきている。2004 年には「南方マンダラ」に関する議論を含む土宜法龍宛書簡のうちの未刊行のものが、京都の高山寺で新たに多数発見されるという出来事があり、本グループのメンバーを主体とした科研によって翻刻が進められ、2009 年に出版された。最近では、本グループとの共同によって、顕彰館から「南方熊楠資料叢書」として小畔四郎、平沼大三郎との往復書簡が刊行されている。しかし、多くの重要な書簡類が未翻刻のままであり、今回の研究でこれらを進めて行くこととした。

書簡資料の特徴としては、熊楠から相手に宛てたものだけでなく、相手から熊楠に宛てられた来簡についても翻刻し、往復書簡として読む必要があることが挙げられる。そのためには、熊楠の発信・来信の記録をデータベース化して全体像を把握する必要がある。特に、日々の発信・来信記録が克明に記されている熊楠の日記の翻刻により、熊楠が他人との間でおこなったすべての交信記録をデータベース化し、内容分析のための基礎とすることが可能である。

以上のように、本研究では、ノート類、蔵書書き込み、書簡のそれぞれに関しての調査を進め、デジタル画像を整備した上で分析をおこなっていくこととした。これにより、一次資料に基づいた南方熊楠の実証的研究を促進することが、本研究の主な目的である。

３．研究の方法

上記のように、南方熊楠の資料研究については、南方熊楠研究会の統括の下に、東京（東京翻字の会）、関西（熊楠関西）、和歌山県田辺市（田辺翻字の会）の毎月開催の三箇所の研究会により、南方熊楠顕彰館などとの協力関係に基づき進めて行く体制が確立されてきた。本科研でも、この体制に基づいて、翻刻やデータベース作成の作業を進めて行くこととした。なお、本科研の研究分担者のうち、橋爪、畔上は東京翻字の会、松居、千本、奥山、安田・唐澤は熊楠関西研究会に所属している。さらに、それぞれの翻刻・データベース作成の実務に関して、関連の研究者から計 3 名の RA を雇用し、協力していただいた。

研究期間の開始とともに、和歌山県田辺市の南方熊楠顕彰館と同白浜町の（財）南方熊楠記念館に松居が出張し、マイクロ化、デジタル画像化された資料の翻刻計画について説明し、調査の継続について依頼した。さらに、別途、和歌山市博物館、和歌山県立公文書館などの他の資料所蔵者に対しても協力を依頼した。その後、資料の翻刻・編集計画を基に、可能な資料について、アルバイトを雇用してデジタル化の作業を進めた。こうした協力関係に基づいて、南方熊楠関連資料特にデジタル化資料を研究者間で共有するための研究ネットワークの構築をおこなった。

以下に、期間中の年次ごとの研究の経過を示す。

2017 年度

8 月 4 日～6 日に田辺市において南方熊楠研究会夏期例会を開催し、計 40 名程の関連の研究者が参加した。一日目には畔上直樹のコーディネートによる研究動向のセッションと、2016 年 12 月に刊行された松居竜五『南方熊楠　複眼の学問構想』および 2017 年 3 月に刊行された『熊楠研究』第 11 号の合評がおこなわれた。二日目午前には公募による自由論題発表、午後には千本英史のコーディネートによるシンポジウム「「田辺抜書」をどう読むか」がおこなわれた。三日目には安田忠典のコーディネートによるワークショップ「中村古峡、南方熊楠と神秘思想・異常心理」などがおこなわれた。

9 月 2 日～14 日に松居が米国のニューヨークとワシントン DC に出張して関連調査をおこなった。これにより、連邦議会図書館に残された熊楠から植物学者スウィングル宛の書簡や標本を発見した。また熊楠が 1892 年にニューヨークで滞在したホテルの場所を特定した。これらの成果については、2018 年 5 月 3 日に南方熊楠顕彰館で口頭発表をおこなった。

10 月から翌年 2 月にかけて『熊楠研究』第 11 号の編集をおこない、3 月に刊行した。特集は夏期例会の際の自由論題で議論の的となった英文論考「燕石考」に関するものとした。12 月から翌年 3 月にかけて、東京の国立科学博物館において「南方熊楠　百年早かった智の人」展を開催し、本研究の成果を活用した。

2018 年度

5 月 3 日に南方熊楠顕彰館において松居が 2017 年 9 月にワシントンで調査したスウィングル宛の南方熊楠書簡と標本に関して発表した。その後『熊楠ワークス』でこの時の講演録を刊行し、詳しい内容について 9 月末に『龍谷大学国際社会文化研究所紀要』に投稿して、現在印刷中である。6 月には南方熊楠顕彰館の月例展として、熊楠がアメリカ滞在中にジャクソンヴィルで交遊を深めた江聖聡に関する展示を松居が作成し、6 月 23 日にこの展観に関する解説をおこなった。8 月 10 日～12 日に和歌山県田辺市において「資料検討部会」「研究動向」「合評会」「一般公募」「シンポジウム」に分けて 3 日間の日程で南方熊楠研究会の第 4 回夏期例会をおこなった。このうちシンポジウムでは「紀伊半島の植生から考える南方熊楠の神社合祀反対運動」という題で議論し、内容は『熊楠ワークス』に紹介された。

この研究会の他の成果については、9 月末締め切りで原稿を集め、査読と編集作業をほどこした後、2019 年 3 月に刊行した『熊楠研究』第 13 号に多くを収録した。第一特集の「南方熊楠・熊弥と岩倉病院」、第二特集の「熊楠生前の著作刊行計画」の他、「燕石考」に関する合評会を踏まえた論文が収録されている。

2019 年 3 月には、南方熊楠顕彰館の常設展のリニューアルがおこなわれたが、松居はこの監修者として加わり、これまでの本研究の成果を反映することに努めた。その結果として、新たな常設展には、文章と画像によるパネル解説だけでなく、デジタルフォトフレームやタッチパネルを駆使した熊楠の学問内容の紹介が盛り込まれることとなった。

2019 年度

南方熊楠の論文執筆のための独特のメモである「腹稿」についての研究のためのワーキンググループを組織し、解読を進めた。その成果を 2019 年 8 月におこなわれた南方熊楠研究会夏期例会においてシンポジウムとして発表し、2020 年 3 月刊行の『熊楠研究』14 号において「腹稿の謎を探る」と題した特集にまとめた。この研究により、これまで全体像がはっきりしていなかった腹稿の現存数が 100 を超えることや、熊楠が腹稿を始めたのが 1912 年から 1913 年に特定できること、特に 1914 年 1 月に始まる「十二支考」の連載のために活用されたことなどが明らかになった。また、熊楠が情報源として「ロンドン抜書」「田辺抜書」という独自の筆写ノートを活用していた他、中国の博物学的知識のために「淵鑑類函」を多用していたなどの興味深い発見があった。

8 月の夏期例会においては、この他にシンポジウム「南方熊楠をどのように位置づけるか　学者・研究者・情報提供者」で議論がおこなわれた。また公募制の自由論題を中心として 16 本の発表があり、これらのうちの多くが『熊楠研究』に掲載されている。

東京、関西、田辺の三箇所で毎月おこなわれている翻刻のための研究会によって、熊楠の日記のうちの未刊行の 1914～1941 分のほとんどの翻刻草稿を今年度までに完成することができた。

6～7 月に南方熊楠顕彰館において「スウィングル展」をおこない、6 月 22 日に関連のシンポジウムをおこなった。このことにより、南方熊楠とスウィングル、田中長三郎の三人の交流に関する概要を明らかにすることができた。

４．研究成果

以上のように、本科研によりさまざまな研究活動をおこない、多数の論文や資料紹介、展覧会などのかたちで、成果を公表してきた。こうした研究から見えてきたことは、ノートなどの草稿類と蔵書への書き込み、書簡・来簡が全体としてシームレスにつながって、熊楠の学問活動の全

体像を知るための無数の道筋を指し示しているということである。

こうした資料研究による、南方熊楠の学問形成の分析について、松居は 2016 年 12 月に刊行した『南方熊楠　複眼の学問構想』において指針を示した。熊楠は古今東西の民俗学、博物学、人類学、歴史、宗教、植物学などの書籍を丹念に読み込み込んでいるが、その読書の傾向に関しては、「ロンドン抜書」や「田辺抜書」のような抜き書きの他、蔵書に残された大量の書き込みから跡づけることができる。また「腹稿」という名前で呼ばれる熊楠独自の巨大で稠密なメモは、後半生の日本語論文の作成において大きな役割を果たした。

今回の科研では、『南方熊楠　複眼の学問構想』で示したこのような見取り図に沿って、さらに研究を進めた。特に、資料を共有して共同研究を進めることで、今後の研究展開のための基盤を整備することができたと考えている。

まず、「ロンドン抜書」については、熊楠がヨーロッパと日本の初期の頃の交流に関心を抱いている点に着目した。このうち、ザヴィエル書簡やランチロットの「日本事情」については、すでに前掲書において分析したが、ウィリアム・アダムズや平戸イギリス商館長の日記を丹念に筆写していることについて、松居の論文「ロンドン抜書の中の日本――南方熊楠の文化交流史研究」にまとめた。

他に草稿資料に関する今回の成果として、特筆すべきは「腹稿」に関する研究である。これについて、南方熊楠顕彰館、南方熊楠記念館、和歌山市立博物館などの悉皆調査の結果として、100 点以上についての詳細な調査をおこない、デジタル画像に関しても整備することができた。また、熊楠の日記の欄外などにも多くの腹稿が存在することが確認され、熊楠が従来考えられてきたよりもはるかに多くの腹稿を作成したことが判明した。

このことは、腹稿だけの問題にとどまらず、熊楠の学問と著作活動の全体に関する研究史を書き換え得る発見である。現存するだけで百点以上もあるということは、熊楠は日本語で論文を書く際には、たいていは腹稿を作成していた可能性があることを意味している。もしかしたら、ある程度長文のものを書く際には、ほぼ例外なく作っていたのかもしれない。そう考えると、熊楠の後半生の執筆過程を考える上では、腹稿の分析が不可欠であるということになる。このような腹稿の重要性の認識と、その研究のための第一歩を切り開いたことは、今回の研究の大きな成果であったと考えられる。

蔵書への書き込みに関しては、従来重点的におこなってきた、洋書に対するものに加えて、今回の研究では中国書に対するものについても調査をおこなった。特に、腹稿の研究から見えてきた熊楠の重要な情報源であった類書、「淵鑑類函」に見られる大量の書き込みに関してデジタル画像を作成し、分析をおこなった。この他にも、熊楠が幼少期に筆写した『訓蒙図彙』の調査をおこない、松居の論文「南方熊楠と江戸の図鑑『訓蒙図彙』」にまとめた。

一方、書簡に関しては、野田浦弼、土屋栄吉、宮武外骨、日野国明など、従来未調査であったものについての翻刻をおこない、それぞれのやりとりに関しての分析をおこなった。こうした未刊行書簡は他にも数多く残されているが、今回の研究を通じて、今後の共同作業による翻刻の体制を構築できたと考えている。

以上のように、草稿資料（ノート類）、蔵書への書き込み、書簡を幅広く調査することによって、南方熊楠の学問形成の過程についての実証的な研究を進めることができた。このことは、今後のさらなる研究の発展の基盤となると考えている。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計23件（うち査読付論文　7件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 松居竜五	４．巻 vol.50-14
２．論文標題 南方熊楠と江戸の図鑑『訓蒙図彙』	５．発行年 2018年
３．雑誌名 ユリイカ	６．最初と最後の頁 139-144
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 松居竜五	４．巻 842
２．論文標題 ニューヨークの南方熊楠	５．発行年 2019年
３．雑誌名 図書	６．最初と最後の頁 2-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 松居竜五	４．巻 52
２．論文標題 米国連邦議会図書館蔵 南方熊楠からスウィングルに贈られた絵巻物一式	５．発行年 2018年
３．雑誌名 熊楠works	６．最初と最後の頁 26-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 松居竜五	４．巻 13
２．論文標題 南方熊楠からスウィングルに贈られた絵巻物	５．発行年 2019年
３．雑誌名 龍谷大学国際社会文化研究所紀要	６．最初と最後の頁 185-197
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 橋爪博幸	4．巻 52
2．論文標題 熊楠が捉えた犬に関するフォークロア	5．発行年 2018年
3．雑誌名 熊楠works	6．最初と最後の頁 16-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 千本英史	4．巻 13
2．論文標題 南方熊楠と長子熊弥さんの闘病	5．発行年 2019年
3．雑誌名 熊楠研究	6．最初と最後の頁 28-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 橋爪博幸	4．巻 98
2．論文標題 南方熊楠邸に残されていた断簡零墨 ： 古生物学者バサー宛て英文レター草稿(1894年)の紹介	5．発行年 2018年
3．雑誌名 生物史研究	6．最初と最後の頁 45-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 唐澤太輔	4．巻 13
2．論文標題 南方熊楠が夢や幻の探求を通じて目指していたこと ： アイスバーグモデルを参照にしながら	5．発行年 2019年
3．雑誌名 「エコ・フィロソフィ」研究	6．最初と最後の頁 39-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松居竜五	4．巻 51
2．論文標題 漱石のハムレットと熊楠のハムレット	5．発行年 2018年
3．雑誌名 熊楠ワークス	6．最初と最後の頁 12-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田村義也・中西須美・松居竜五	4．巻 12
2．論文標題 南方熊楠「燕石考」英文自筆草稿：新校訂英文原文および校異	5．発行年 2018年
3．雑誌名 熊楠研究	6．最初と最後の頁 86-115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 唐澤太輔	4．巻 2(8)
2．論文標題 南方熊楠による「世界認識構造図」の解読と考察―「名」と「印」をめぐる言説を中心に―	5．発行年 2017年
3．雑誌名 頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要	6．最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 唐澤太輔	4．巻 18
2．論文標題 ブリコルール熊楠―「やりあて」とブリコラージュをめぐって	5．発行年 2018年
3．雑誌名 「エコ・フィロソフィ」研究	6．最初と最後の頁 25-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 唐澤太輔	4．巻 50
2．論文標題 『ヒューマン・パーソナリティ』と南方熊楠	5．発行年 2017年
3．雑誌名 熊楠ワークス	6．最初と最後の頁 19-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 橋爪博幸	4．巻 51
2．論文標題 仔犬と熊楠	5．発行年 2018年
3．雑誌名 熊楠ワークス	6．最初と最後の頁 1-1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 橋爪博幸	4．巻 55
2．論文標題 「異界」と熊楠	5．発行年 2020年
3．雑誌名 熊楠ワークス	6．最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松居竜五	4．巻 14
2．論文標題 腹稿の謎を探る	5．発行年 2020年
3．雑誌名 熊楠研究	6．最初と最後の頁 6-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松居竜五	4．巻 14
2．論文標題 虎に関する腹稿の解読	5．発行年 2020年
3．雑誌名 熊楠研究	6．最初と最後の頁 49-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松居竜五	4．巻 54
2．論文標題 スウィングル・田中長三郎に関する調査の概要	5．発行年 2020年
3．雑誌名 熊楠ワークス	6．最初と最後の頁 43-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 畔上直樹	4．巻 53
2．論文標題 近代日本の神社林：明治初年「引き裂き上地」に注目して	5．発行年 2019年
3．雑誌名 熊楠ワークス	6．最初と最後の頁 22-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 唐澤太輔	4．巻 57
2．論文標題 聖地那智山における表象―南方熊楠の体験から―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 世界仏教文化研究叢書	6．最初と最後の頁 28-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田村義也・岸本昌也	4．巻 12
2．論文標題 南方熊楠書簡資料　野田浦弼、土屋栄吉（昭和三年～十六年）	5．発行年 2018年
3．雑誌名 熊楠研究	6．最初と最後の頁 190-202
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 郷間秀夫・岸本昌也・千本英史・川島昭夫	4．巻 13
2．論文標題 南方熊楠書簡資料　宮武外骨（明治四十五年～大正五年）	5．発行年 2019年
3．雑誌名 熊楠研究	6．最初と最後の頁 226-245
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 郷間秀夫・岸本昌也・千本英史・川島昭夫	4．巻 14
2．論文標題 南方熊楠書簡資料　日野国明来簡（大正二年）	5．発行年 2020年
3．雑誌名 熊楠研究	6．最初と最後の頁 206-210
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計7件（うち招待講演　3件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 松居竜五
2．発表標題 米国連邦議会図書館蔵 南方熊楠からスウィングルに贈られた絵巻物一式
3．学会等名 南方熊楠顕彰館「南方熊楠を知ろう」
4．発表年 2018年

１．発表者名 松居竜五
２．発表標題 南方マンダラと生態系
３．学会等名 京都工芸繊維大学環境科学センター公開講演会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 松居竜五
２．発表標題 南方熊楠研究の現在
３．学会等名 熊野大学（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 松居竜五
２．発表標題 南方熊楠研究の現在
３．学会等名 関西比較文学会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 安田忠典
２．発表標題 中村古峡、南方熊楠と神秘思想・異常心理
３．学会等名 南方熊楠研究会夏期例会
４．発表年 2017年

１．発表者名 千本英史
２．発表標題 「田辺抜書」をどう読むか
３．学会等名 南方熊楠研究会夏期例会
４．発表年 2017年

１．発表者名 唐澤太輔
２．発表標題 南方熊楠は「猶太教の曼陀羅」で何を表現しようとしたか―セフィロトの樹との比較―
３．学会等名 比較思想学会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計2件

１．著者名 小峯 和明・宮腰 直人	４．発行年 2017年
２．出版社 笠間書院	５．総ページ数 490
３．書名 【シリーズ】日本文学の展望を拓く　4　文学史の時空（第4部6松居竜五「ロンドン抜書の中の日本――南方熊楠の文化交流史研究」393～406頁）	

１．著者名 三谷真澄・村岡倫・松居竜五	４．発行年 2017年
２．出版社 法藏館	５．総ページ数 116
３．書名 「世界」へのまなざし（「松居竜五「南方熊楠とアジア」43～80頁）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	畔上　直樹 (Azekami Naoki) (20315740)	上越教育大学・大学院学校教育研究科・教授 (13103)	
研究分担者	橋爪　博幸 (Hashizume Hiroyuki) (40412978)	桐生大学短期大学部・その他部局等・講師（移行） (42303)	
研究分担者	奥山　直司 (Okuyama Naoji) (50177193)	高野山大学・文学部・教授（移行） (34701)	
研究分担者	千本　英史 (Chimoto Hideshi) (50188489)	奈良女子大学・人文科学系・教授 (14602)	
研究分担者	安田　忠典 (Yasuda Tadanori) (90388413)	関西大学・人間健康学部・教授 (34416)	
研究分担者	唐澤　太輔 (Karasawa Taisuke) (90609017)	秋田公立美術大学・大学院・准教授 (21403)	